

# 令和6年度 中部教育事務所 授業改善プロジェクト【授業改善版】詳細

## 自ら学びに向かう力を育成する授業改善 ~探究に値する課題を他者と協働して最適解・納得解を導く学び~

### ① 身に付けさせる資質・能力の明確化と「めあて」と「まとめ」の整合

★身に付けさせる資質・能力(知識及び技能 or 思考力,判断力,表現力等)

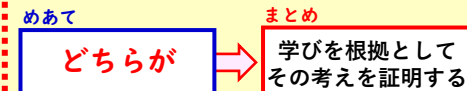
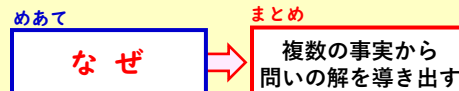
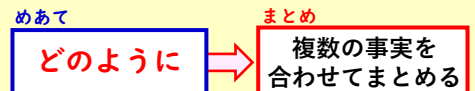
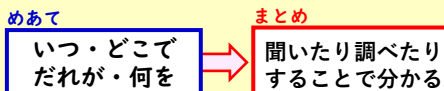
整合を図るとは、身に付けさせる資質・能力(知識及び技能or思考力,判断力,表現力等)に適した「めあて」と「まとめ」の性質を含んでいること

【知識及び技能】

【知識及び技能】or【思考力,判断力,表現力等】

【思考力,判断力,表現力等】

【思考力,判断力,表現力等】



(例)めあて 気温を知るためには、どこで計ればよいか?  
(例)まとめ 正しく気温を知るためには、日の当たる風通しのよい場所で計る必要がある。

(例)めあて 約数には、どのような法則があるのだろうか?  
(例)まとめ 約数には、①ある数をわりきれ、②ある数以下の整数、③必ず1とある数が入る、④約数をかけたらある数になる⑤ある数は、約数の公倍数、という法則がある。

(例)めあて 新美南吉さんは、なぜ、最後に「青いけむりが、まだつづから細く出ていました。」と表現したのか?  
(例)まとめ 新美南吉さんが最後に表現したかったことは、生き物全てには魂があるからその共存する大切さと、人間の都合で生き物が亡くなってしまふ悲しさの対比である。

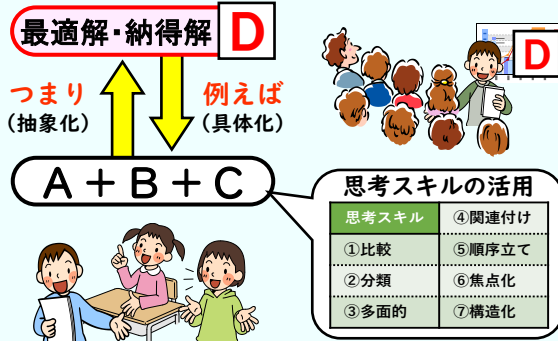
(例)めあて 東京と宮崎はどちらが住みやすいだろうか?  
(例)まとめ 東京には娯楽施設がたくさんあるが、家賃等を含め物価が高いので生活するには困難性が高い。宮崎は自然豊かで物価も東京に比べて低いので、私は宮崎が住みやすいと考える。

### ② 個別最適な学び + 協働的な学び

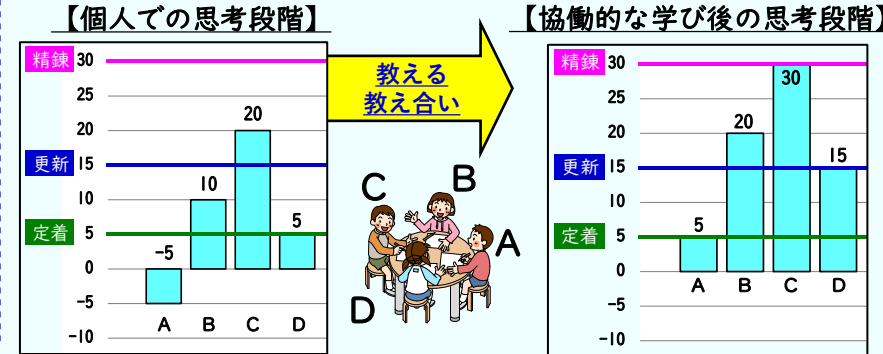
★最適解・納得解を導く「協働的な学びⅠ」及び定着以上に導く「協働的な学びⅡ」



協働的な学びⅠ



- 理解している児童生徒を伸ばす! 理解していない児童生徒を定着へ!
- 班の全員を必ず「**定着以上**」にすることを約束事とする!



協働的な学びⅡ

### ③ 習熟の時間の工夫

★単元レベル及び一単位時間レベルで、思考力,判断力,表現力等の育成及び実社会・実生活で活用できる**習熟の時間**を確保

協働的な学びを中心に計画

単元全体を見通した習熟の時間の確保

一単位時間での習熟の時間の確保

知識及び技能を活用する問題へ

1	2	3	4	5	6	7	8	9
最適解・納得解を導く協働的な学びが中心(思考力,判断力,表現力等)	確実な習得・定着(知識及び技能)	最適解・納得解を導く協働的な学びが中心(思考力,判断力,表現力等)	確実な習得・定着(知識及び技能)	最適解・納得解を導く協働的な学びが中心(思考力,判断力,表現力等)	確実な習得・定着(知識及び技能)	最適解・納得解を導く協働的な学びが中心(思考力,判断力,表現力等)	確実な習得・定着(知識及び技能)	単元テスト

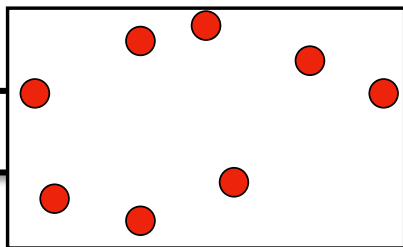
レベル② 実社会・実生活での活用をイメージした習熟

<b>社会【小5】</b> 山脈・河川名を習得 知識及び技能 旅行の場面を設定し、行程から見える景色を問う問題の設定	<b>理科【小5】</b> 物質の状態変化を学習 知識及び技能 線路の枕木や橋の継ぎ目の隙間と物質の状態変化を関連付ける問題の設定	<b>数学【中2】</b> 箱ひげ図を学習 知識及び技能 携帯電話の通信速度の内容を読み取り、活用状況に合ったプランを選択
---	--	--

# 身に付けさせる資質・能力の明確化と「めあて」と「まとめ」の整合

①【身に付けさせる資質・能力】が何か→② 「めあて」と「まとめ」の整合

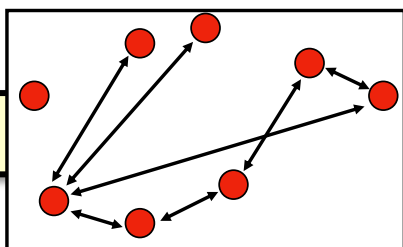
知識・技能



聞いたり調べたり  
することで分かる

いつ・どこで  
だれが・何を

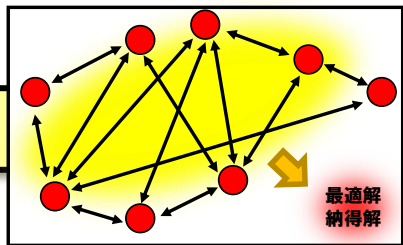
知識・技能  
or  
思考力・判断力・表現力



複数の事実を合わ  
せてまとめる

どのように

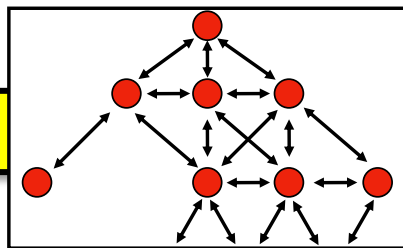
思考力・判断力・表現力



複数の事実から  
問いに対する解を  
導き出す

なぜ

思考力・判断力・表現力



学んだことを根拠  
に立場を明確にし  
考えを証明する

どちらが

身に付けさせる資質・能力(知識・技能or思考力・判断力・表現力)に適した「めあて」と「まとめ」の性質を含んでいるか否かで語っていく必要がある

協働的な学び I

最適解・納得解の探究

判断力

思考力

表現力

知識・技能等

**D** 最適解・納得解

関係性を見出す  
知識の変換・加工

つまり

例えば

**A** + **B** + **C**

既存知識や個人思考

a b c

a b c

共通項

相違項

思考スキル	「児童生徒の見方・考え方」及び「教職員の見方・考え方」
比較	<input type="checkbox"/> ~と~を比べると <input type="checkbox"/> 同じところ、違うところ $A \equiv B$ $A \neq B$
分類	<input type="checkbox"/> 同じ仲間に分けると <input type="checkbox"/> まとめてみると <small>つまり</small> $A \rightarrow B$ $B \rightarrow A$ $A \rightarrow B \rightarrow C$ $C \rightarrow B \rightarrow A$ <small>例えば</small> $A \rightarrow B$ $B \rightarrow C$
多面的	<input type="checkbox"/> 違う立場で見ると <input type="checkbox"/> 様々な分野から見ると <small>経費面</small> <small>時間面</small> <small>運搬面</small> <small>環境面</small> <small>経路A</small> <small>経路B</small> <small>経路C</small>
関連付け	<input type="checkbox"/> これまで学んだことや知っていたこととのつながりは $A \dots B$ <b>新課題</b> $B \dots C$ <small>既習事項</small> <small>どのようなつながり?</small> <small>生活経験</small>
順序立て	<input type="checkbox"/> どの順番で考えるか <input type="checkbox"/> 優先されることは何か <small>Aの順番から考えると、~であるため~が1番となる</small> <small>*「比較」の思考を含む</small>
焦点化	<input type="checkbox"/> 複数の中で1つに決めると <input type="checkbox"/> その中で最も重要なことは $A$ $B$ $C$ <small>A, B, Cの中で出てはまっているが、固いから考えるとAが最も重要と考える。理由は、~である。よってAを考える。</small>
構造化	<input type="checkbox"/> 様々な事項の関係やつながりを考えてみると (※図式化等の活用) $A = B \leftrightarrow C$

A・B・Cの関係性を考える・・・学習内容に適した思考スキルを使って！

個別最適な学び

協働的な学び

# 協働的な学びⅡ

## 児童生徒の教え合いによる授業改善！

〔※ 知識の「定着」→「更新」→「精錬」〕

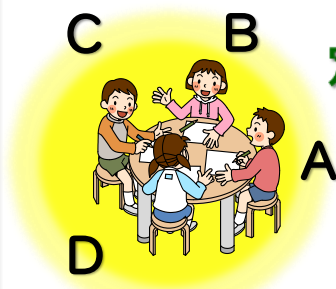
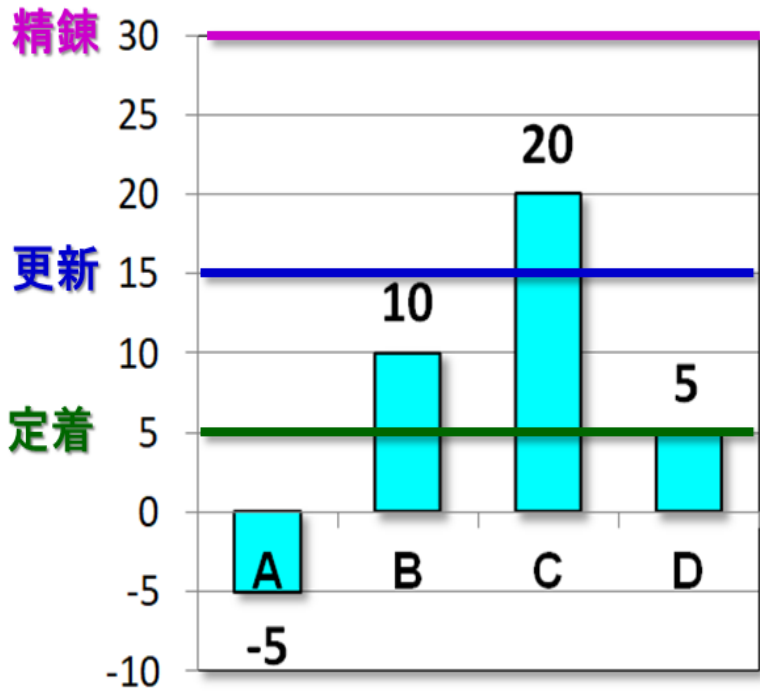
班全員を定着以上

4月から徹底指導

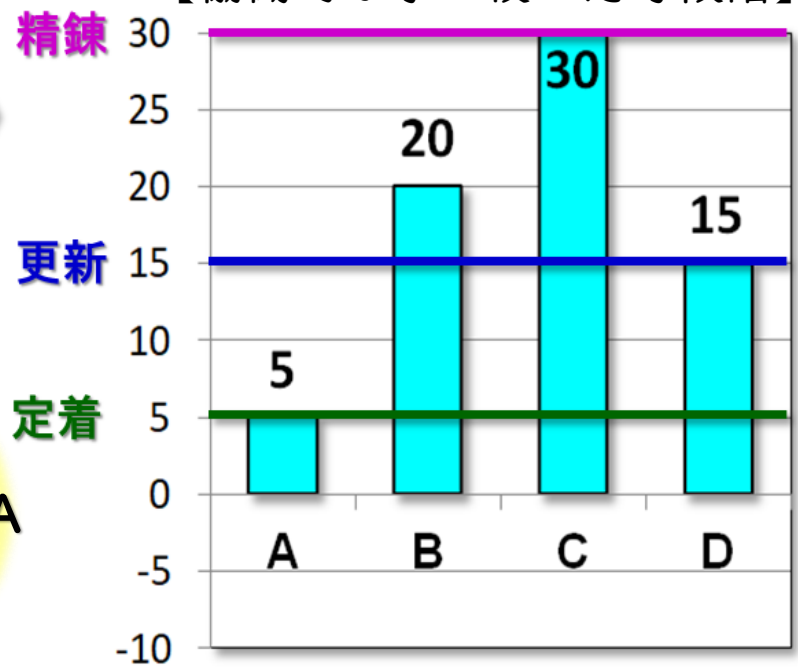
定着→更新→精錬

成功体験の経験増

【個人での思考段階】



【協働的な学び後の思考段階】



### 3 学びを実社会・実生活とつなげる「習熟の時間の工夫」

## 単元全体を見通した習熟の時間の確保

身に付けさせる資質・能力を明確にした単元レベルでの**習熟の時間の確保**

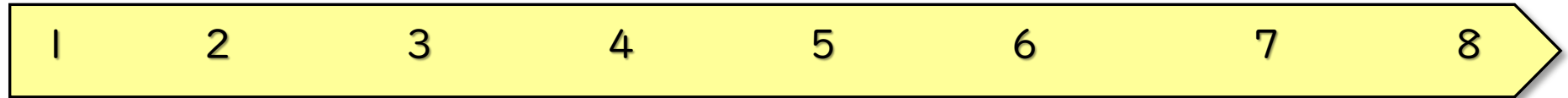
〔教科書の学習内容・指導過程にそった指導の場合〕

**「どのように？」**を基本として構成されている





【身に付けさせる資質・能力】  
「知識・技能」or「思考力・判断力・表現力」※なぜ？要素含む場合

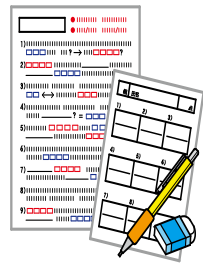


単元  
テスト



## 〔教科書の学習内容・指導過程を工夫した指導の場合〕

<p><b>「なぜ？」</b> or なぜ要素を含む<b>「どのように」</b>に学習内容を変換</p> <p>【身に付けさせる資質・能力】 <b>「思考力・判断力・表現力」</b>を重視</p>  <p>最適解・納得解を導く <b>協働的な学び</b>が中心 (思考力・判断力・表現力)</p>	 <p>確実な 習得・定着 (知識・技能)</p>	 <p>最適解・納得解を導く <b>協働的な学び</b>が中心 (思考力・判断力・表現力)</p>	 <p>確実な 習得・定着 (知識・技能)</p>
--	--	--	--



単元  
テスト

### 3 学びを実社会・実生活とつなげる「習熟の時間の工夫」

## 1 単位時間での習熟の時間の確保

## ものの見方・考え方

### レベル② 「実社会・実生活での活用をイメージした」場合

理科：エネルギー

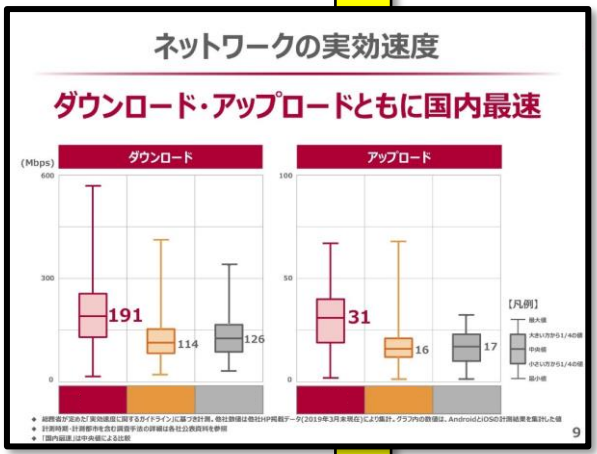
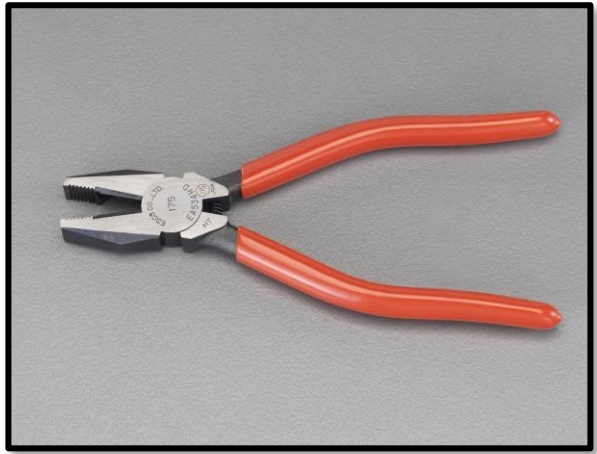
社会：歴史

数学：データの活用

てこはどのような時につり合うのだろうか

なぜ源頼朝は鎌倉に幕府を開いたのだろうか

どのような時に箱ひげ図を活用すべきか



なぜペンチは、このような形をしているのだろうか

なぜ現在の鎌倉周辺は、海水浴場に適しているのか

どのプランが自分にあった契約だろうか？



実社会・実生活にある素材を見つける習慣  
教師自身が「なぜ」と思いながら生活する習慣

授業づくり